

# 小学校教科書検定結果をどうみるか

子どもと教科書全国ネット21事務局長 鈴木敏夫

## 1 小学校教科書検定結果と教科書

1 子どものまなびや教師の教育活動に  
応えたものになっているか

(1) すべての教科書に二次元コード（QR  
コード、URL）がついた

東書について見ると、算数は大半のページに二次元コードがつき、家庭科では、青菜のおひたしやみそ汁などの調理実習やミシンの使い方を学ぶ動画があり、国語では、付録のページに宮沢賢治の伝記を最初の2ページだけ載せ、続きはQRコードで読む、となっている。

全国の小中学生にデジタル端末がほぼ配り終えた？ことが背景にあり、複数の科目をこなす小学校では、それぞれの教科の技能、知識が必要なため、二次元コードが多用されるかもしれないが、いくつかの問題

がある。

### ① 内容の吟味が必要

QRコードなどについて、「教科書の内容との関連」となっているが、教科書検定基準の対象ではない。現在でも教育出版の社会6年生は、QRコードから、教科書会社のサイトに入り、その中の防衛省・自衛隊のKIDS・SITE、子ども向け「防衛白書」にアクセスできるようになっている。

### ② 使いこなせるか

45分の授業で、教科書内容を教えると、ほとんど時間がない、これ以上QRコードを増やされても「もてあましてしまう」との声がある。また、子どもが紙の教科書に集中できないのではないか、授業への集中を阻害する可能性がある。QRコードで簡単に情報を得られると自分で調べることがおろそかにならないか、が指摘される

### ③ さらに寡占化を促すか

QRコードとそのサイトは、教科書発行者が作成する。発行部数等の経営規模で左右され、その内容が少なく、採択に影響し、撤退に追い込まれかねない。今回も全体として教科書発行者の寡占化が進んでいる。

(2) 増え続ける子どもと教師への負担…「カリキュラム・オーバーロード（過積載）」

前回検定時は、小学校6年間で使う教科書の平均のページ数は、現行より10%増え、英語科を入れると前回より14%増で、記録が残る1998年度以降最多で、その時と比べ約1.8倍とされていた。

今回も全体で、頁数が2%増加している。各教科の平均の合計1万4813ページ（前回1万4520ページ）である。

英語は8.0%増で、6社中3社がA B判からA4判に、判が大きくなった。

また、デジタル端末を家に持ち帰るとしたら、ますます「重いランドセル」になり

かねない。

### (3) 誘導的な教科書と主体的の学習の押しつけ

①前回、以下のような問題を各新聞社も指摘していた。

アクティブ・ラーニングのやり方にとどまらず、板書例や授業の進め方などのガイドラインを掲載する教科書が目立っている。発問の下にヒントがあるものや、つぎのページに答えが載っている、あるいは考える視点などを決まった形で誘導している。これは「先生に親切設計」（朝日新聞3月27日）なのか、果たして本当の意味での「多面的・多角的に考え」る学びとなるのだろうか、「詰め込み」へ逆戻りする危険性もはらんでいる」（毎日新聞3月27日）や同紙耳塚寛明「授業が型にはまってしまふ恐れもある」があった。

②今回、どの教科、どの教科書も「課題をみつけ、予想や計画を立て、観察や実験、調査から得られた結果を考察し、まとめて発表する」など、あらかじめ定めた学習の流れに沿った構成になっている。それは、「主体的・対話的で深い学び」や「探究学習」のための編集が「ブラッシュアップした」と報道されている。

③このような教科書のつくりは、授業方法

でアクティブ・ラーニングを押しつけ、資質・能力の育成を強調する学習指導要領（以下、指導要領）に根本的な原因がある。このままでは教師の専門性を発揮させることなく、教科書で文科省が望む内容に誘導されていく危険性ははらんでいるのではないか。

また探究学習などで強調される子どもの自主性、自律性は、学習にあたっての手段ではなく、本来は学習を通じて身につけていくものではないか。

## 2 あらたな「政府見解」による教科書記述の変更が継承された

安倍元首相が政権に返り咲いて、2014年に「検定基準改定」で、社会科学では南京虐殺事件の用語や関東大震災での朝鮮人・中国人の虐殺された人数がそのまま書けなくなり、今回もさらに徹底されている。逆に「政府の統一的な見解」で領土問題が書かされてきた。

さらに一昨年からは日本維新の会の馬場氏の質問主意書に沿った菅内閣の政府見解がでて、「従軍慰安婦」や朝鮮からの人々の「強制連行」が中学・高校の教科書から削除された。

これでは、朝鮮の若者や男性は、進んで

日本軍の兵士になったことになる。日韓の研究によれば、「志願」は、実際はさまざまな方法で無理矢理行われ、約1万8000人に達した。しかし、それでもたたりず、1944年徴兵制に踏み切り、約23万人が日本軍兵士となった。

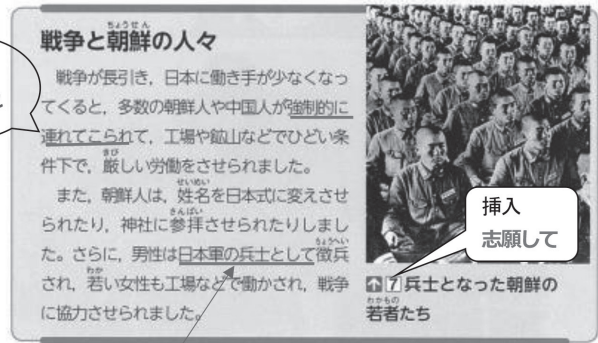
## 2 愛国心教育を一層前面に打ち出させた

### (1) 道徳の場合

来年で導入から7年目を迎える道徳の教科化は、元々学問の体系のない道徳を教科にしたことに根本的な無理がある。安倍政権の狙いは、規則規範に忠実で、愛国心を持ち、国家・社会に役立つ「人材」の育成であった。

その流れで「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の愛国心教育が一層強化されている。この項目での検定意見は13件あり、前回の2件、その前の導入時の3件と比べ大幅に増加し、政府の介入が強まった。

いくつかの例があるが、教育出版2年で「いつも買いに來てくれる地域の人のためにがんばろうと思うんだ」というせりふの後に、「これからも日本のあじをつたえて



追加・修正 日本軍に加わるようになり、のちに徴兵され

いきたいね」と追記、さらに「むかしからある日本の食べもので、すきなものはありますか」をつけくわえている。教材のタイトルも「ちいきよきに気がつく」を「国やちいきよきに気がつく」と修正した。そもそも小学校1・2年生の道徳の観点・項目は「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」である。国も社会科では5年で扱う内容である。

## (2) 領土問題：政府の宣伝文書化

この問題では、学習指導要領で、第5学年で「領土の範囲」については、「竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れること」とあるだけである。

①しかし、法的拘束力があるとする指導要領を越えて、文科省が「指導助言する」とする指導要領解説（以下「解説」）により、領土問題が詳細に従来と違う表現で記載されている。竹島、「北方領土」は、韓国やロシアによる、「実効支配」ではなく、「不法占拠」と書かせている。

尖閣諸島については、「領土問題は存在しない」となっている。しかし、日中の合意文書（2014年）では、尖閣諸島等の問題について「異なる見解を有している」と認識し、対話と協議を通じて、情勢の悪化を防ぐとともに、危機管理メカニズムを構築し、不測の事態の発生を回避することで意見の一致をみた」とある。それこそ「生徒が誤解するおそれ」（検定用語）はないのか。軍事力による対決・解決ではなく、道理ある説明を行う、平和的な外交努力が求められている。

こうして、領土問題は国民の民族主義的感情（ナショナリズム）を煽ることが手段となり、教科書は、政府の宣伝文書となった。

## ② 教出5年で「国にとって領土はとて

大事だけれど、となりの国々とはなかくしていきたいね」と述べる子どもイラストがあった。今回は、その前にあったイラストが「不法に占拠されている領土は、どうすれば返してもらえらるだろうか」に変わった。これも付度か。

③ 子どもたちが、歴史的な経緯を含め、冷静で事実に基づく合理的な判断が出来るようにすることが教育の役割である。かつて中学地理「解説」で、「我が国と韓国の間に竹島をめぐって主張に相違があることなどにも触れ、」となっていた。政府の言うところの「北方領土」は、複雑な歴史的背景がある。竹島の問題は、日本の植民地支配の問題が絡んでおり、日本政府が植民地支配についての誤りをキチンと認め、話し合いのテーブルに双方が着くことが大事である。

## 3 相変わらず「自己評価」が目立つ道徳

① 「権利と義務」を並立させ、義務を強調する教材や子どもの自己評価を詳細にいれていた「あかつき」と需要数最下位の学図が撤退した。日文のみ別冊がある。かつて

は、あかつきと学図にもあった。

#### ②定番の教材

ア、消えたもの 星野君の2墨打（従来は東書、廣済堂、学図）…指示の押しつけとの意見もあった。

イ、全社掲載 はしのうえのおおかみ、かぼちゃのつる、ブラッドレーのせいきゅう書（2社）・お母さんのせいきゅう書（4社）、雨のバス停で、手品師

#### ③他に消えたもの

・「国旗と国歌を大切に」（教出）…批判や間違いの指摘があった。

・「これってけんり？これってぎむ？」（あかつき）

#### ④いくつかの特徴

全体としては、編集委員会作成の題材が多いこと、題材の前後に書かれている発問などによって徳目を押しつける授業が想定されていること、ひき続き6社中4社で「自己評価」の欄があることなど、現行の教科書の問題点がそのまま残されている。

### 4 新しく加わった内容…ジェン

#### ダー平等、LGBTQなど

学習指導要領は、3・4年の保健体育で「思春期には異性への関心が芽生える」と

し、性の多様性にはふれていないが、6社すべてが性の多様性について取り上げている（前回は5社中2社）。

大日本・保健5・6年では「生まれたときの体の性と、今、自分が思っている性がちがうこともあります。また、気になったり、好きになったりする相手が異性の場合もあれば、同性の場合もあって、『好き』の形もさまざまです」とある。

### 5 あらためて

#### 教科書とは何かを考える

最近の社会科学などの文科省の用語・記述に対する政府見解に基づく「検定基準」を使った介入と相まって、教科書の記述も文科省・指導要領とその「解説」の意図に忠実な内容になって、さらに授業を誘導している。こうして、指導要領、「解説」、教科書検定の三位一体で文科省の教育政策が教科書を通じて、子どもたちに大きな影響をあたえようとしている。

教科書は年間、日本の人口と同じ約1億3000万冊発行されている。子どもたちは、教科書には正しいことが書いてある、と思う。保護者と議論になったとき、かつては、先生が、こう言っていた、で収まっ

たが、今はそうはいかない。でも、教科書にこう書いてあると、子どもが主張すれば、保護者は反論せず、教科書を見て学ぶことになる可能性がある。特に戦後史は、親の世代も余り学習していない。その影響は大きい。大学生の「歴史事象に関する学習契機となったメディアは」と市民団体が聞いたところ、「教科書68・0%で圧倒的」だった。

日本の教師には、学校教育法で教科書の使用義務が課せられている。ただし、第2項に、前項の教科用図書以外の図書その他の教材で、有益適切なものは、これを使用することができる。とある（下線は引用者）。実際に、教師はどうなのか。よく言われたのは、「教科書で教える」のか、「教科書を教えるのか」であった。

教科書研究センターの調査（2018年）によると、「教科書だけ使う」と「教科書を主に使う」とした教師は、算数94%、数学79・6%、理科では小学校83・8%、中学校77%となっている。（他の教科については、国語では、小学校96・2%、中学校97・2%、社会では、小学校70・4%、中学校68・4%、中学校英語では90・8%。

もう一度、教科書の持つ意味を考え、授業の組み立てを自分なりに考えることが、大事になっている。